

転移性肺腫瘍に対する至適治療方針、至適治療効果評価方法の検討

1. 研究の意義：様々ながんや悪性腫瘍からの転移性肺腫瘍に対する治療として肺切除術が施行されます。しかしながら大腸癌などの一部の癌に対する抗腫瘍効果はほぼ確立されているものの、どのようながんや腫瘍からの肺転移に対して、どのような時期に、どのような手術を行うべきであるかなどの問題に関しての結論は出されていません。また、転移性肺腫瘍に対する肺切除の治療成績の評価基準に関しても、現在定まったものではありません。

そこで、転移性肺腫瘍に対して肺切除を受けた患者さんのデータを収集することで、肺切除術を安全に行うための周術期管理や、より適切な治療選択が行えるようになります。

2. 研究の目的：転移性肺腫瘍に対する至適治療方針、至適治療効果評価方法を検討する。

3. 研究の対象・方法：当科にて1996年1月から2024年12月に転移性肺腫瘍に対し肺切除を受けた患者様を対象とします。病歴、カルテ、画像所見や、臨床検査データを参照し、術後合併症の発生や術後の治療成績に関わる因子を明らかにし、至適治療方針を検討します。また、至適な治療成績の評価基準を検討します。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究で利用する情報は登録されている臨床情報です（性別、年齢、原発巣の治療状態、組織型、術前併存症、術前呼吸機能、癌に対する治療内容と治療日、追加治療の有無、手術前の化学療法の有無、手術日、病期、腫瘍径、手術術式、切除根治性、補助療法の有無、最終確認日、転帰、再発部位、再発後治療など）。試料は利用しません。

5. 外部への試料・情報の提供

外部に情報を提供することはありません。

6. 研究期間

研究機関の長の実施許可日～2030年12月31日

7. 研究の対象に該当する患者さんへ：プライバシーの確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で解析を行います。また、研究結果を

公表する際には、症例のグループごとでの解析結果の発表となり、患者さん個人が特定されることはありません。情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。ただし、すでに発表済みなどで必ずしもご要望に添えない場合もあることをご了承ください。

8. 研究組織

本研究は大阪大学呼吸器外科にて行われます。

研究責任者：

565-0871

大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座 呼吸器外科学

新谷 康

電話:06-6879-3152 Fax:06-6879-3164